

地域包括支援センター 活動状況報告書

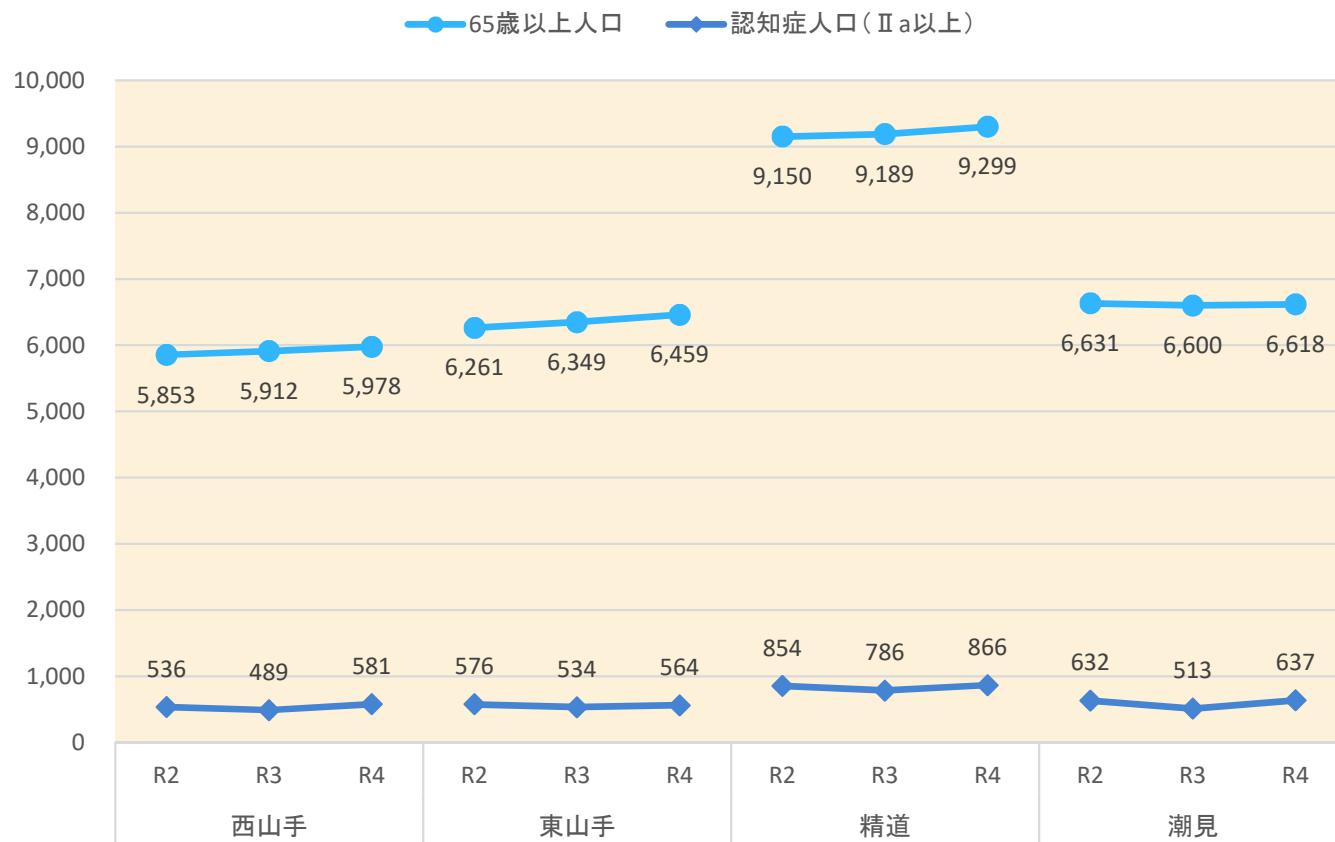
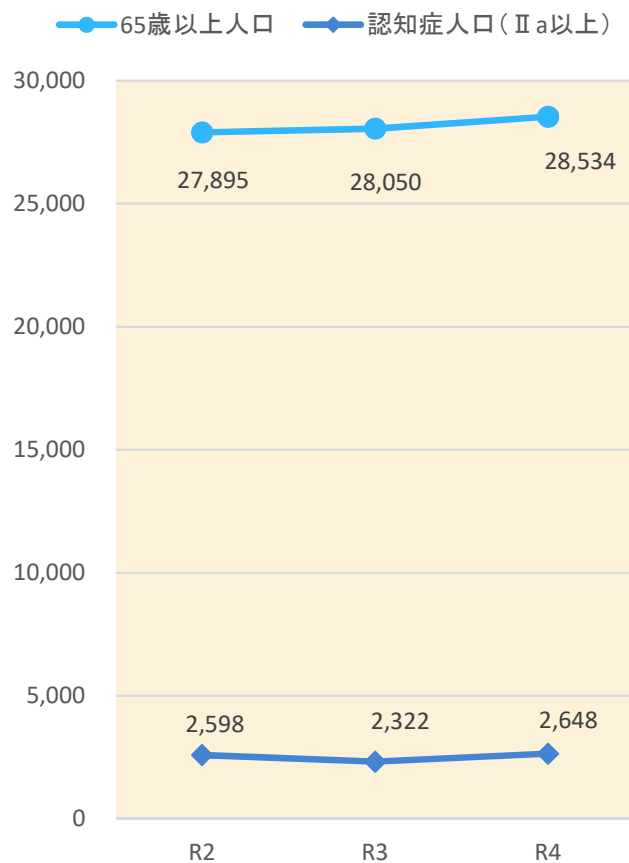
令和5年8月28日 高齢介護課



圏域概況（高齢者、認知症人口）

市全体では、65歳以上人口は微増だが、圏域別に見ても微増および横ばい傾向である。

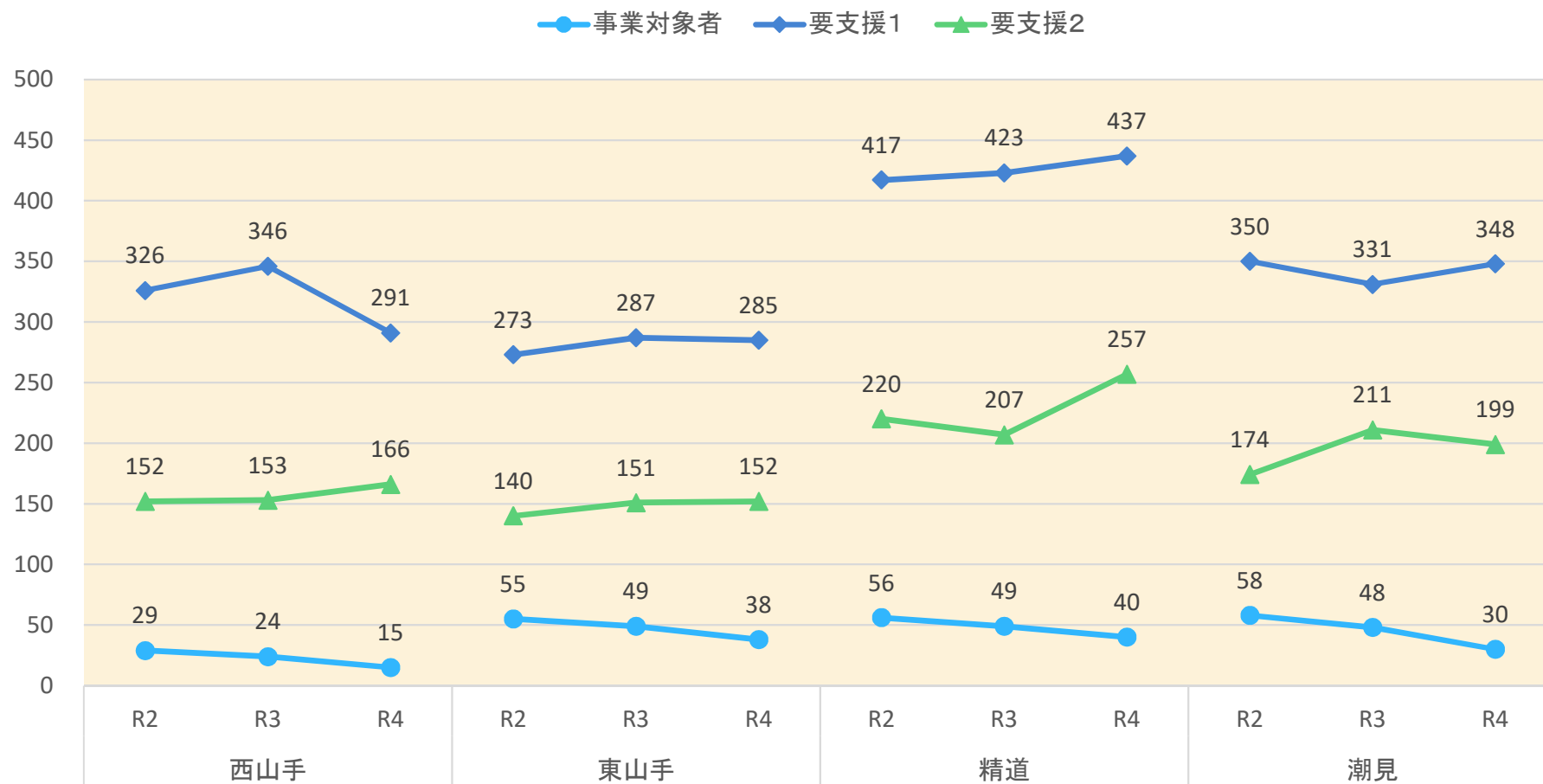
認知症人口の目安として介護保険認定調査票より、認知症日常生活自立度がⅡ a 以上の方の推移を示している。年間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響で外出の機会が減ったことによる中核症状・周辺症状が悪化した方の対応報告は多かったが、人数は微増であった。増加分の内訳はⅡ a の方が増加しており、Ⅱ b 以上の人数に大きな変化はなかった。



圏域概況（事業対象者、要支援対象者人口）

高齢者人口の増加に伴い、要支援1及び2の対象者は、西山手高齢者生活支援センターを除く各圏域で多少の増減はあるものの、全体的に横ばい傾向を示している。総合事業のサービスのみを利用することができる事業対象者は、全圏域で減少している。

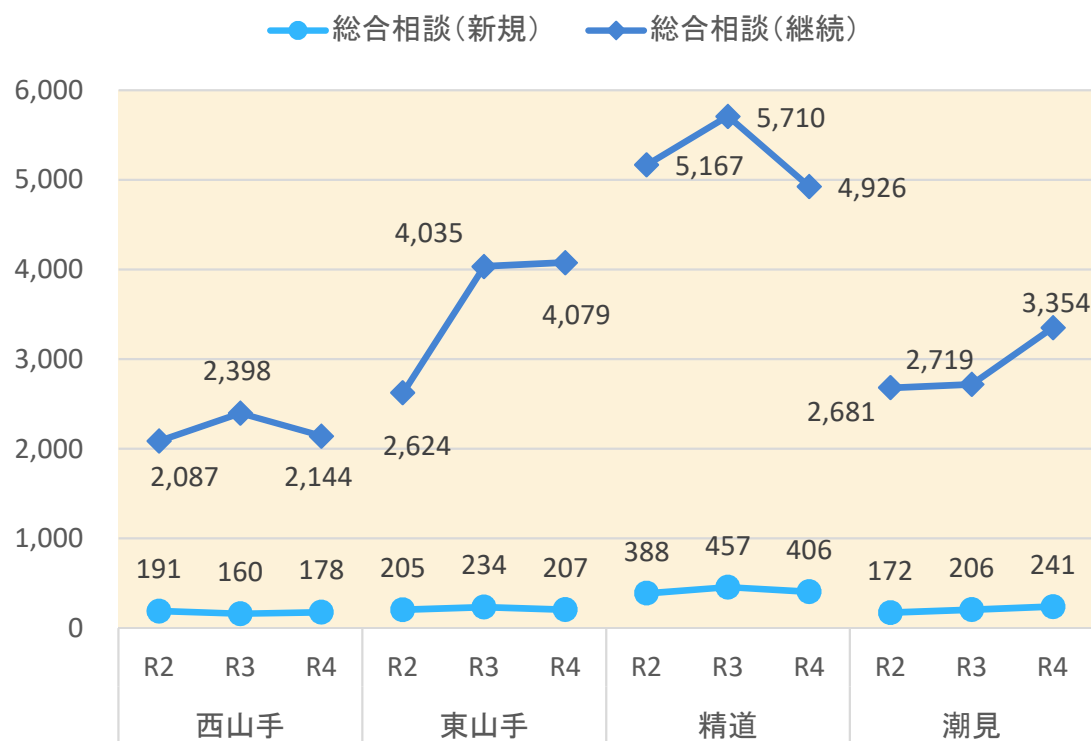
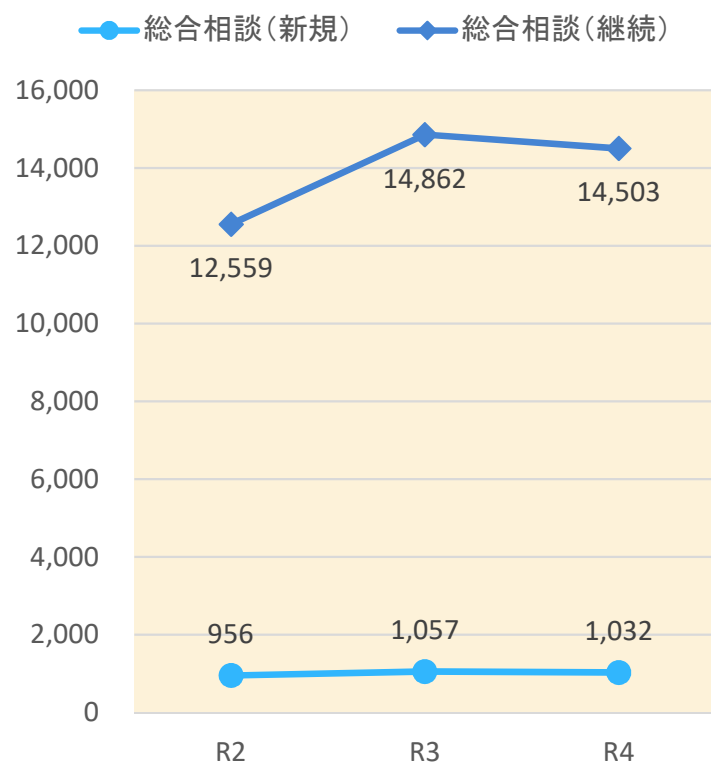
これまでと同様、自立支援型地域ケア会議等にて、サービス利用優先になっていないか、一般介護予防や地域の役割を持つことを目標に活動できているか等を確認し、対象者の自立に向けた支援を行えるよう、引き続きケアマネジメント向上を目指していく。



1-1 高齢者の総合相談について (相談件数【新規・継続】)

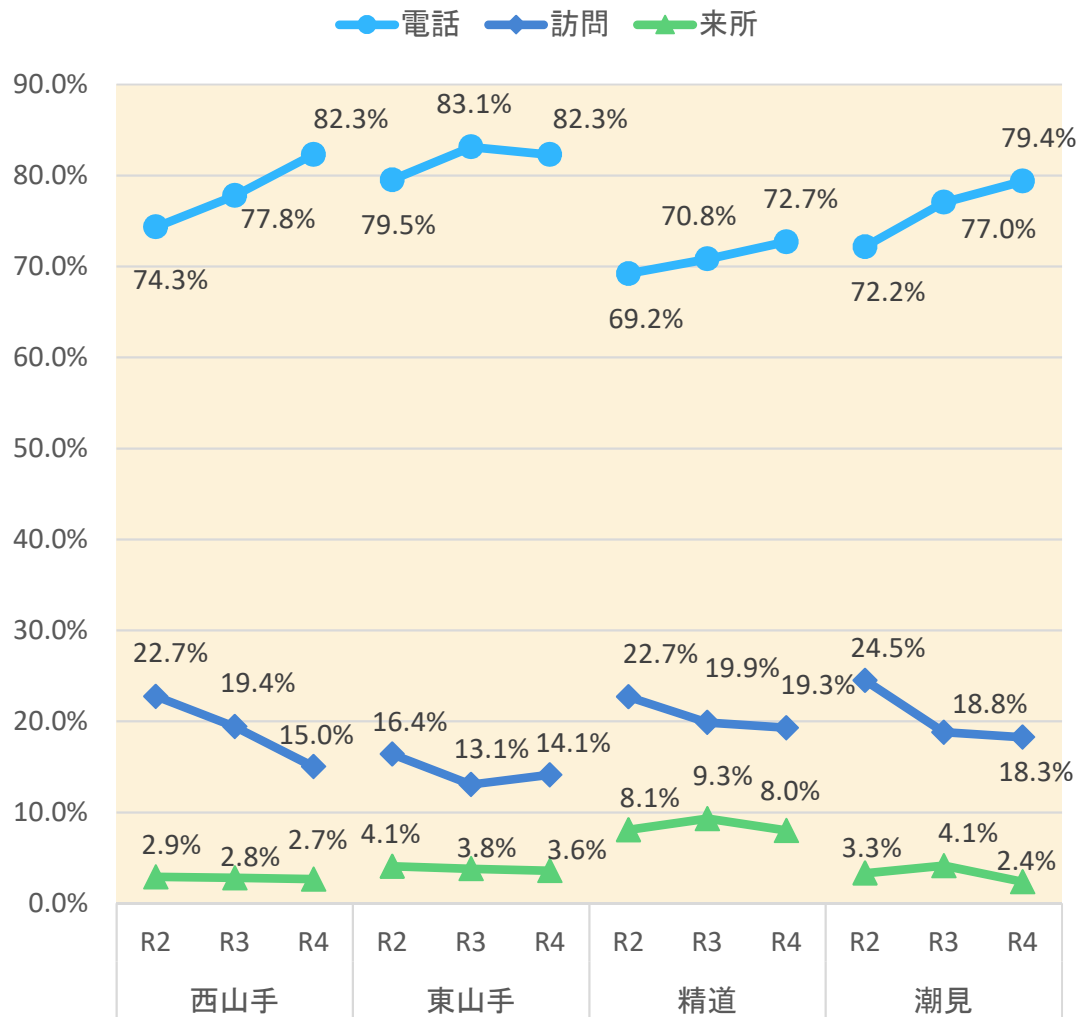
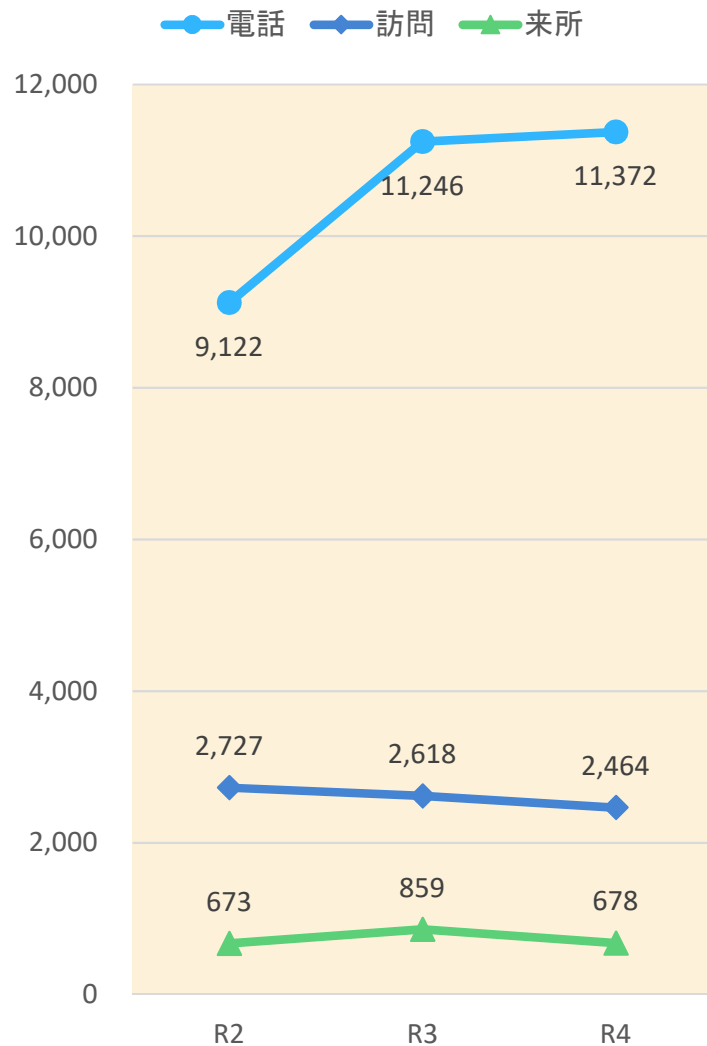
全体の相談件数は、前年に比べてそれほど大きな増減は見られなかった。また、継続相談は、圏域ごとの増減は見られるものの、新規相談件数は全体的に横ばい傾向であった。

今後、高齢者人口の増加と共に、相談件数は増加し続けることが予想されるため、昨年度同様、支援体制を構築するのに必要な地域づくり、地域住民らと連携し開催する地域ケア会議を円滑に開催することが取組みの鍵となることから、支え合い推進員との連携強化、S Vの活用、地域ケア会議開催のシステム化に取り組む。



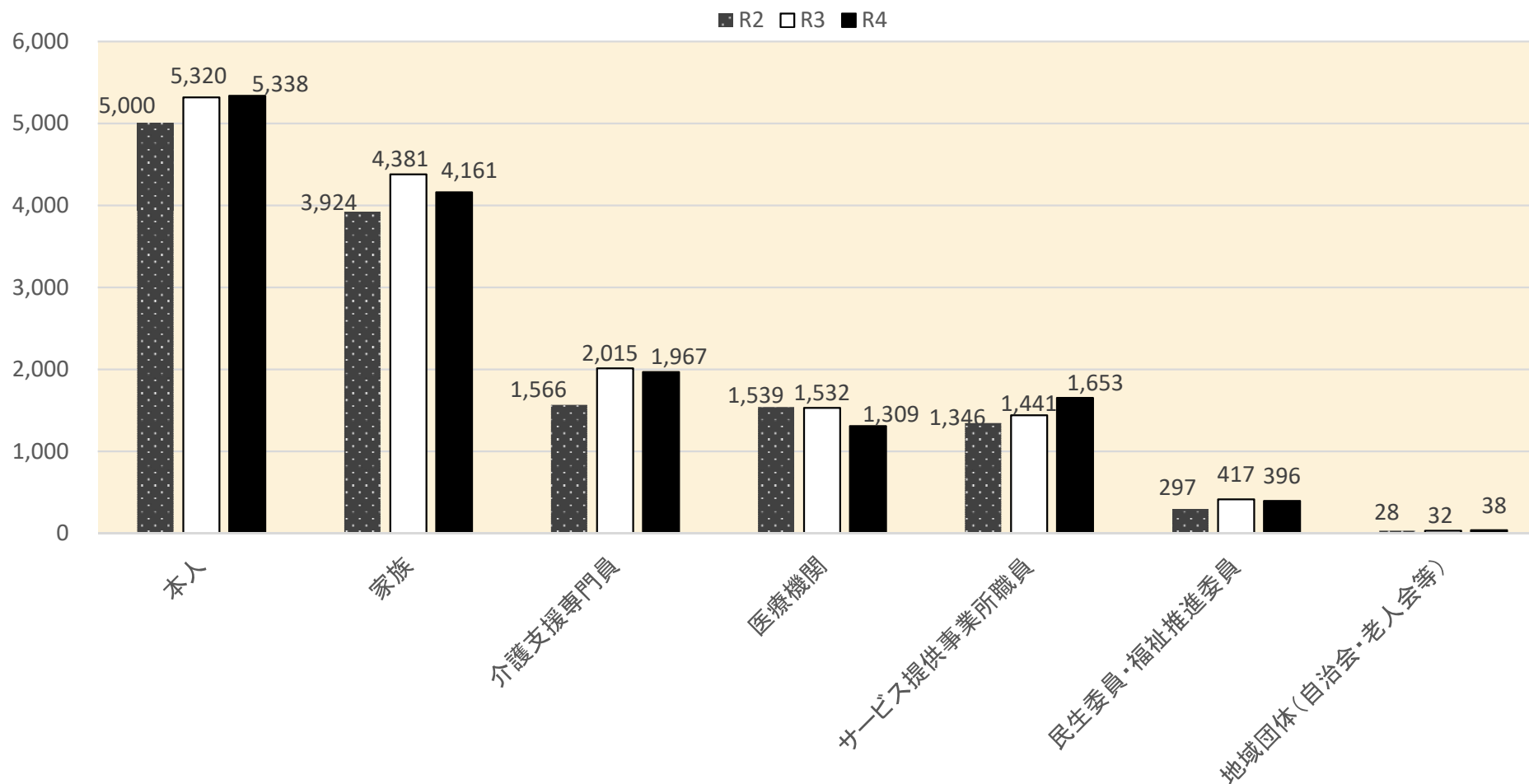
1-2 高齢者の総合相談について（相談方法件数）

昨年度、相談件数や相談方法等で、令和2年度に比べて大幅な変化が見られたものの、令和3年度から令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に一定の落ち着きが見られたことから、令和3年度に比べて相談方法等において、大きな変化は見られなかった。



1-3 高齢者の総合相談について（相談対象者）

令和3年度から令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に一定の落ち着きが見られたことから、令和3年度に比べて件数の大きな増減は見られなかったものの、今後も継続して多機関との連携に取り組み、医療介護連携、ケアマネ支援、地域を進めることが重要である。

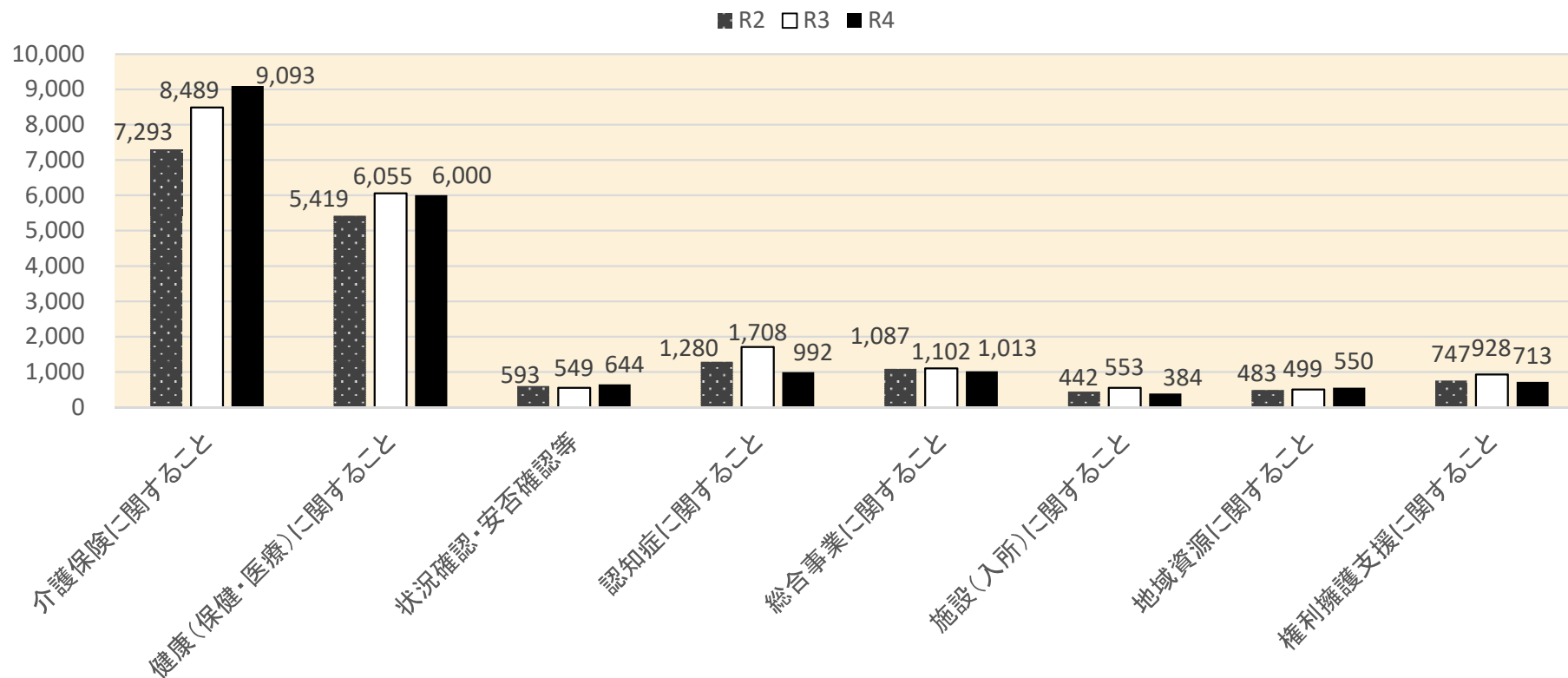


1-4 高齢者の総合相談について（相談内容）

昨年度同様、介護保険に関する相談と健康に関する相談が多くを占めている。一方で、認知症に関する相談は減少傾向である。

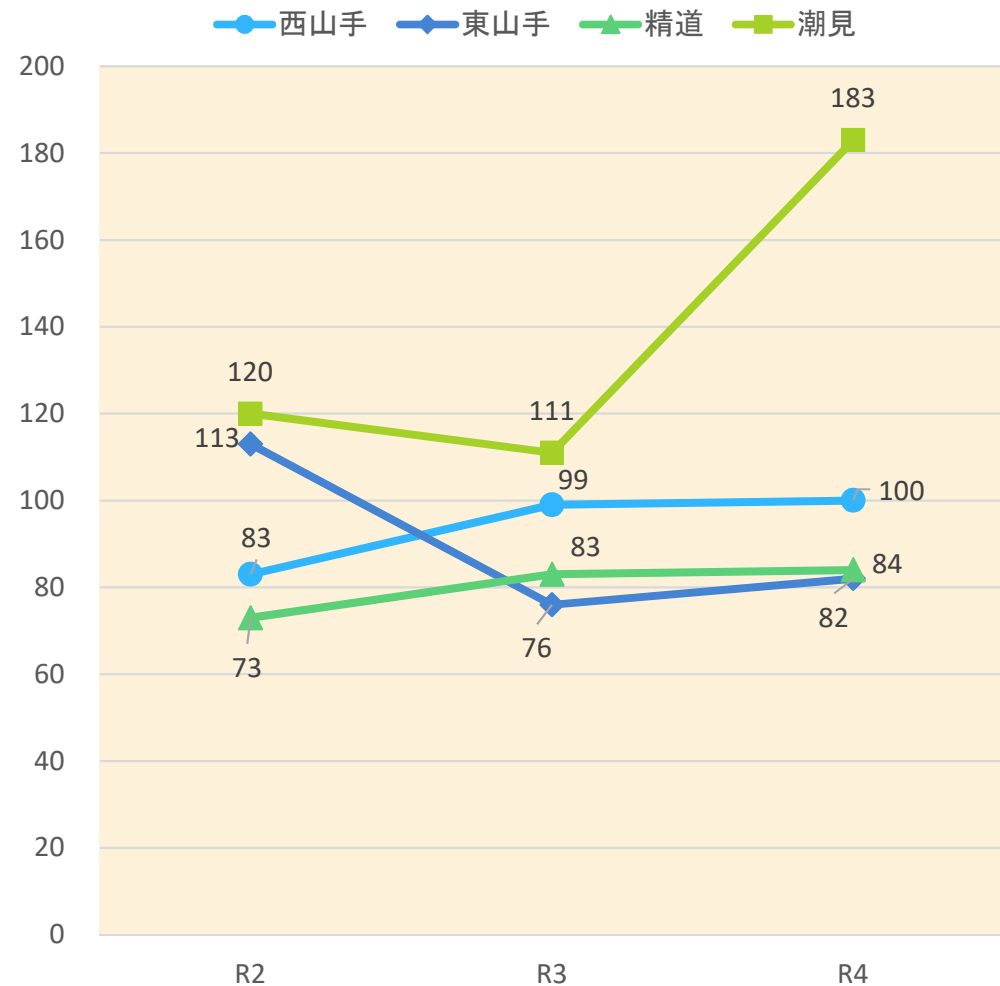
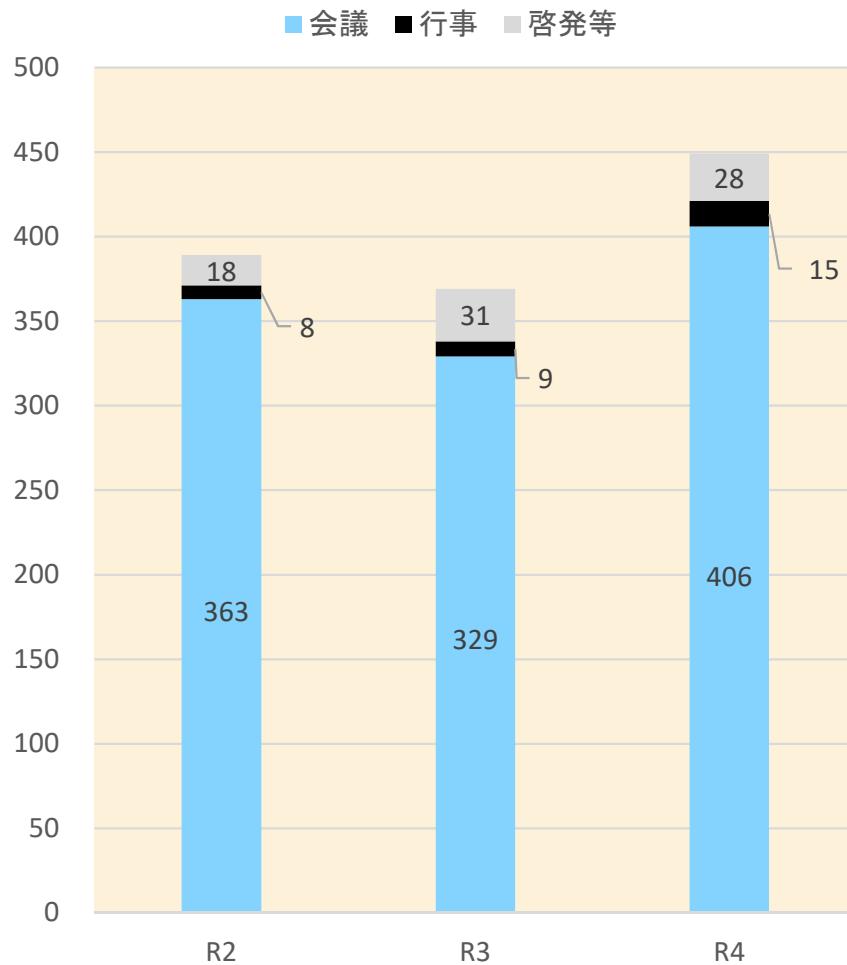
地域包括支援センターが、介護保険について相談できる機関であると認知されている一方で、認知症に関する相談が減少していることから、地域包括支援センターが認知症の相談窓口であることの周知啓発がより一層重要となっている。

それ以外の相談内容については、昨年度と同様である。



2 包括的継続的ケアマネジメント（ネットワーク作り）

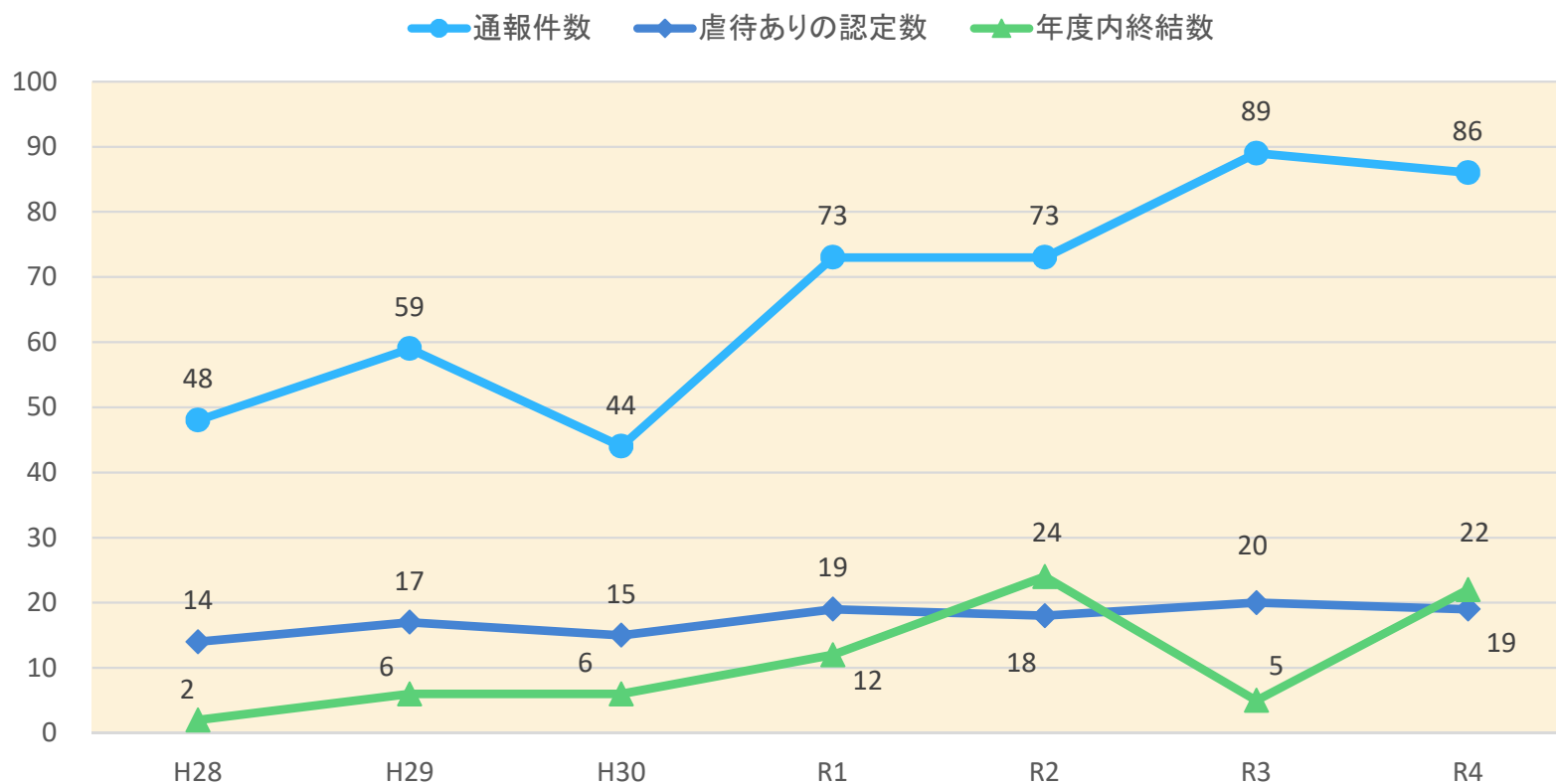
昨年度においては、地域のネットワーク作りは新型コロナウイルス感染症の影響等による会議の減少で減少傾向であったものの、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に一定の落ち着きが見られたことから、潮見圏域におけるネットワークづくりへの取組が増加している。



3 権利擁護業務（虐待対応件数）

虐待通報件数は、令和元年度から急増しているが、虐待ありと認定された件数は横ばいで、年度内に終結している件数は増加した。

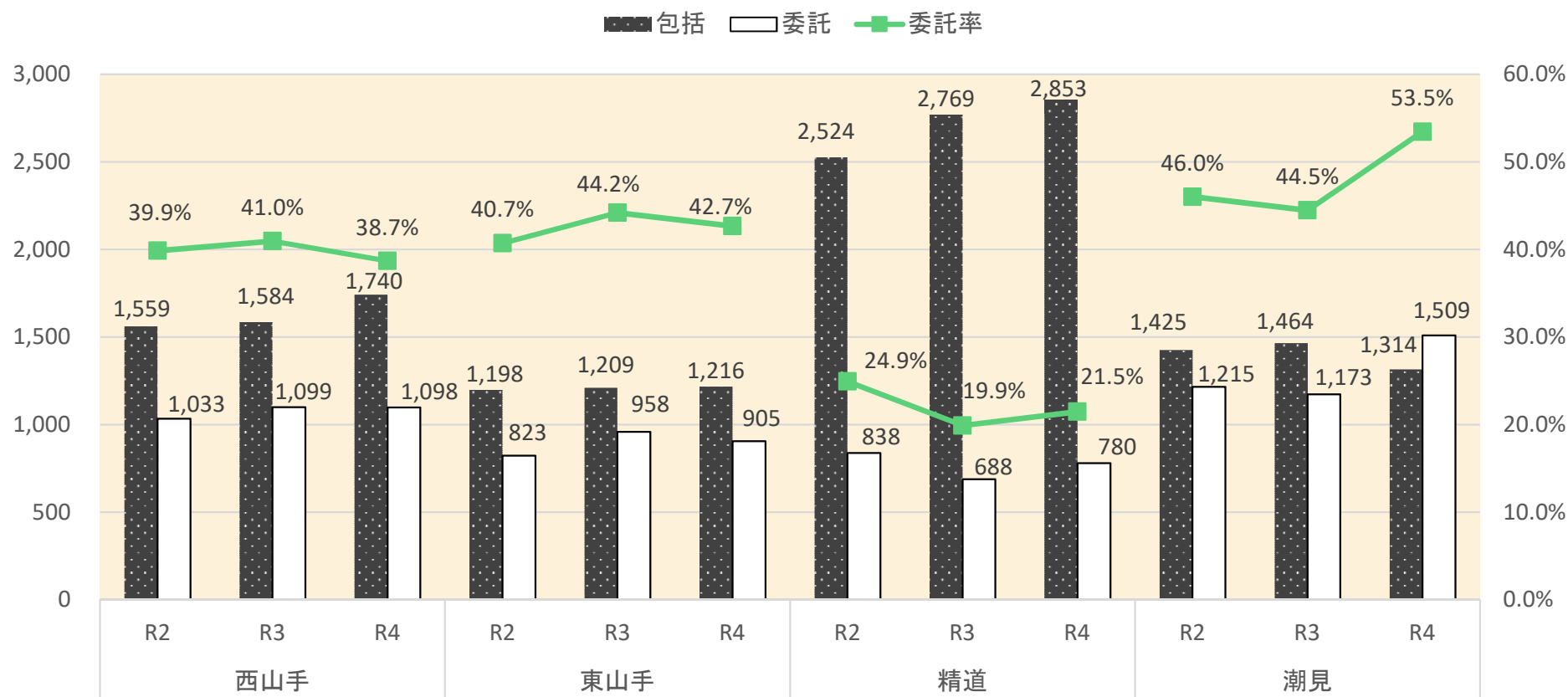
令和元年度以降、警察からの通報が増加したため全体数も伴って増加している。また、令和2年度のケースを分析した「縦レビュー会議」ではケアマネジャーからの報告件数が少ないことが課題としてあがり、令和3年度に市内ケアマネジャー対象の研修を企画・実施し、ケアマネジャーからの報告件数も増加している。



4-1 介護予防ケアマネジメント（予防プラン作成）

潮見高齢者生活支援センターを除く各地域包括支援センターでのケアプランの作成が増加している。委託件数は西山手高齢者生活支援センター、東山手高齢者生活支援センターでは減少し、包括分が増加している。一方、精道高齢者生活支援センター及び潮見高齢者生活支援センターでは、増加している。

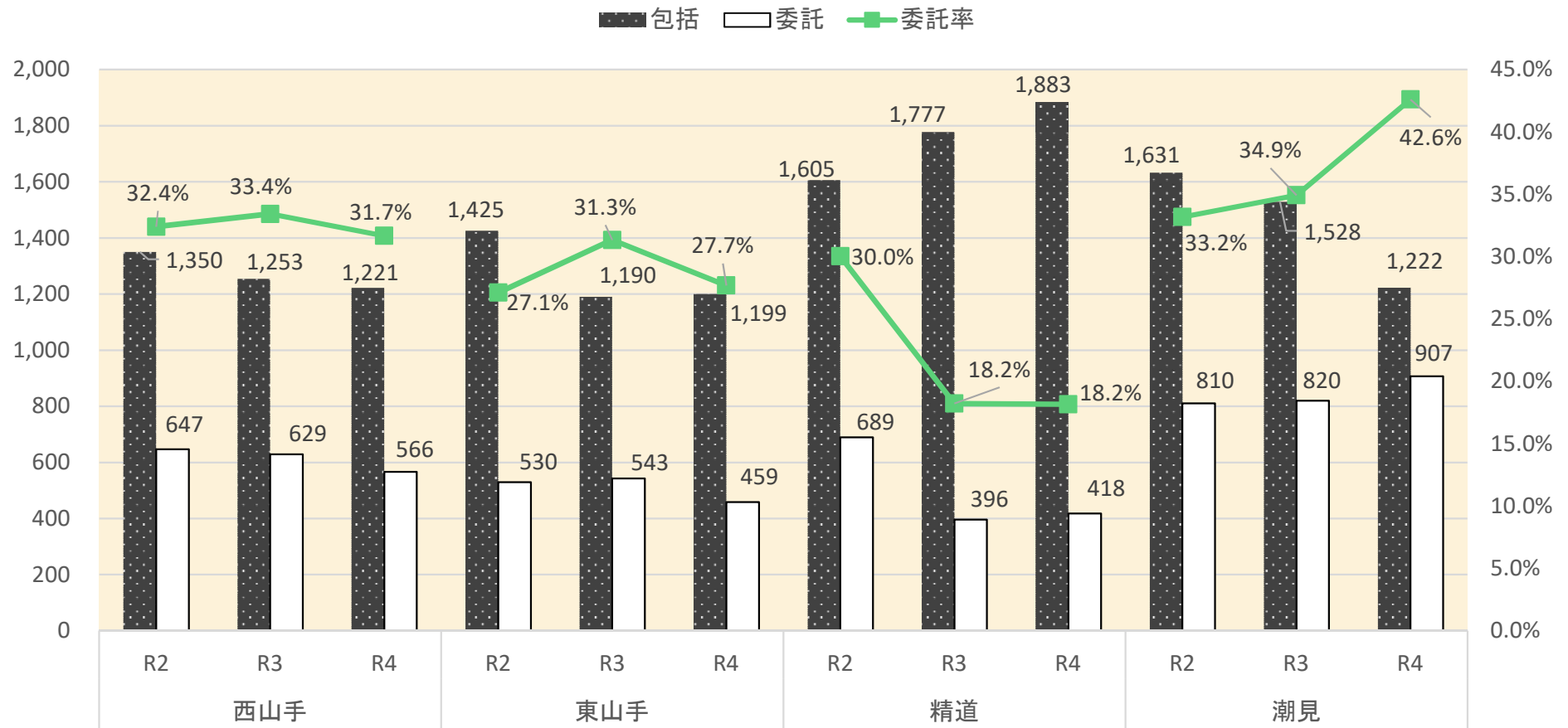
なお、自立支援・重度化防止につながるようなケアプランを作成できるケアマネジャーのスキルが必要であることから、引き続き地域ケア会議等でスキルの向上に努める。



4-2 介護予防ケアマネジメント（総合事業に関するケアプラン作成）

総合事業に関するケアプラン作成件数には、昨年度に比べてそれほど大きな変化は見られない。
また、委託件数については、潮見高齢者生活支援センターを除き、横ばいあるいは減少傾向である。

要支援の方に自立に向けたケアマネジメントを行い、一般介護予防、総合事業と連携することも必要である。引き続き、自立支援型地域ケア会議等でケアマネジメントスキル向上を目指す。

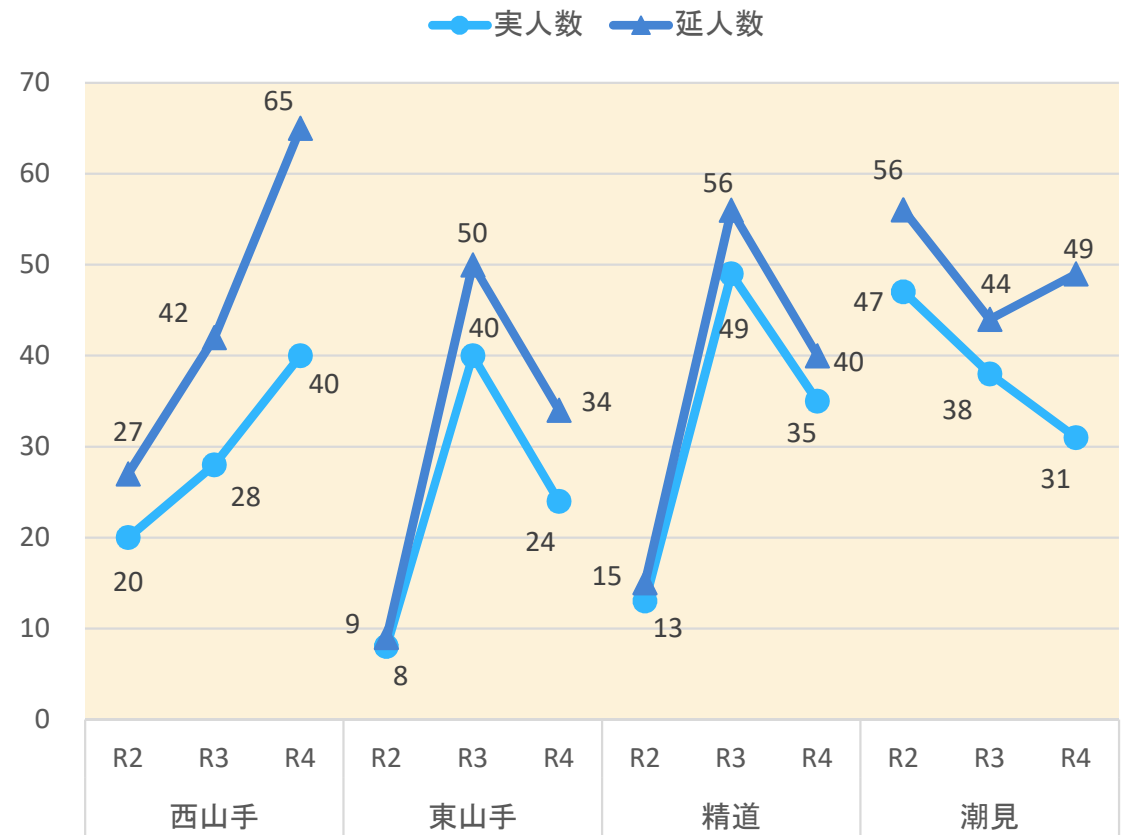
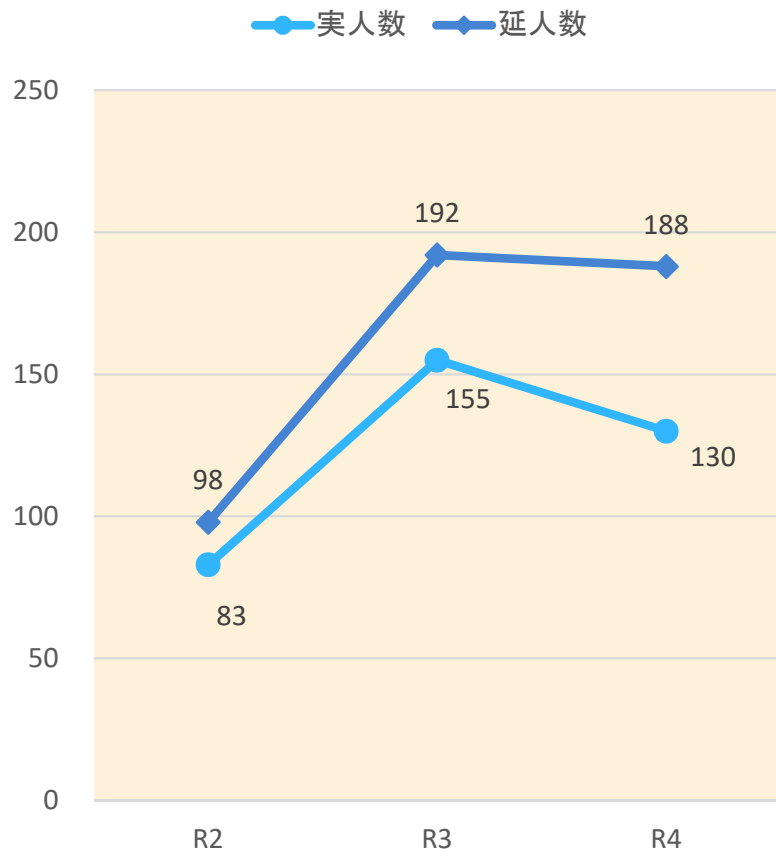


4 介護予防ケアマネジメント（ケアマネジャーからの相談件数）

全体的には、実人数、相談延人数ともに大幅な変化は無い。実人数について、各高齢者生活支援センター別に見ると、西山手高齢者生活支援センターでの相談件数は増加している。その一方で、他の高齢者生活支援センターでは、減少している。

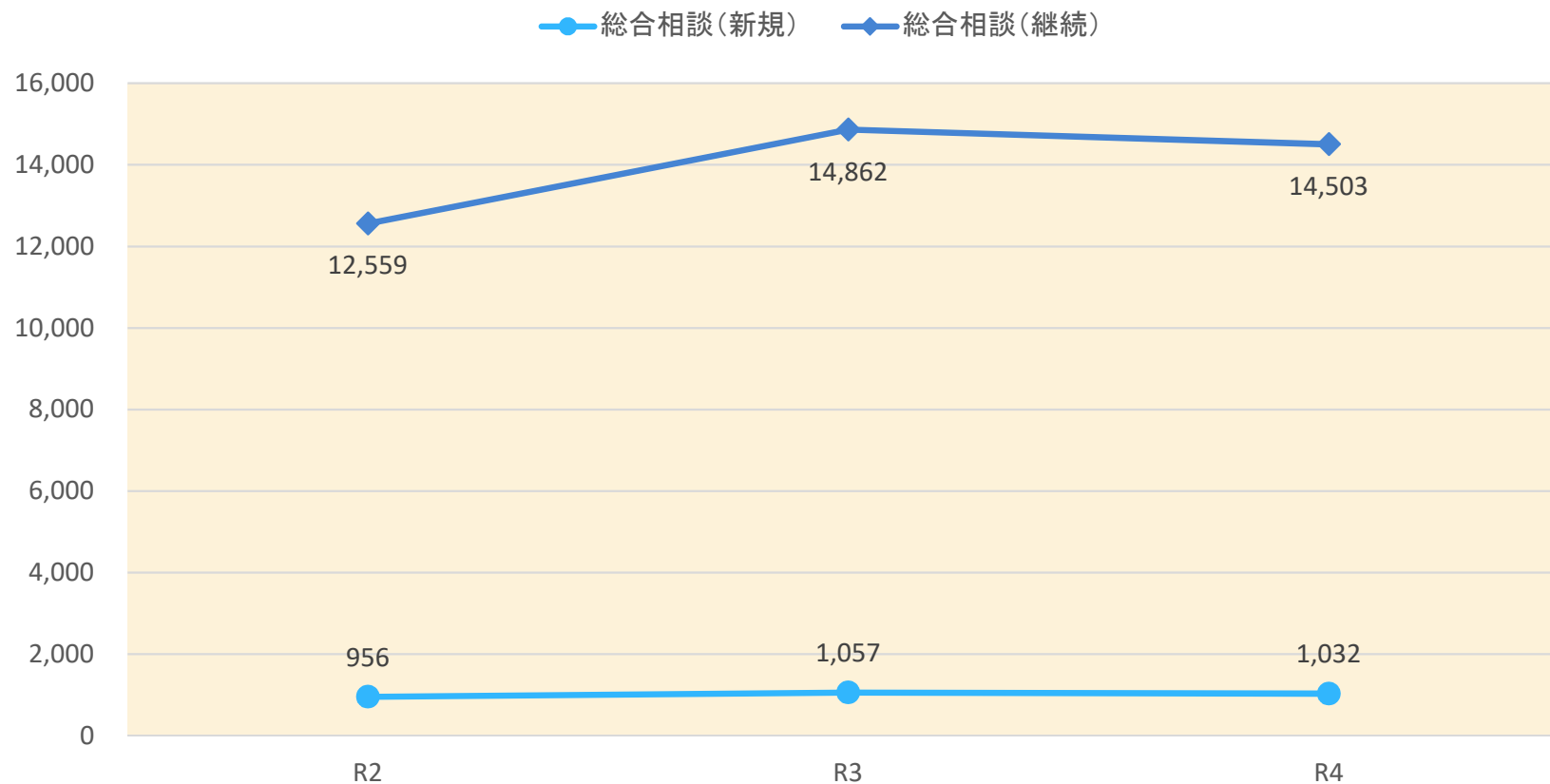
令和2年度から令和3年度の増加率に比べて、令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に一定の落ち着きが見られたことから、相談件数の落ち着きが見られている。

なお、複合的な問題を抱えた対応困難ケースも多く、ケアマネジャーと包括で連携する機会が多くなることが予想されるため、引き続き事業所との交流会等を実施し、包括と事業所の連携強化を図る必要がある。



今後の地域包括支援センターを取り巻く状況

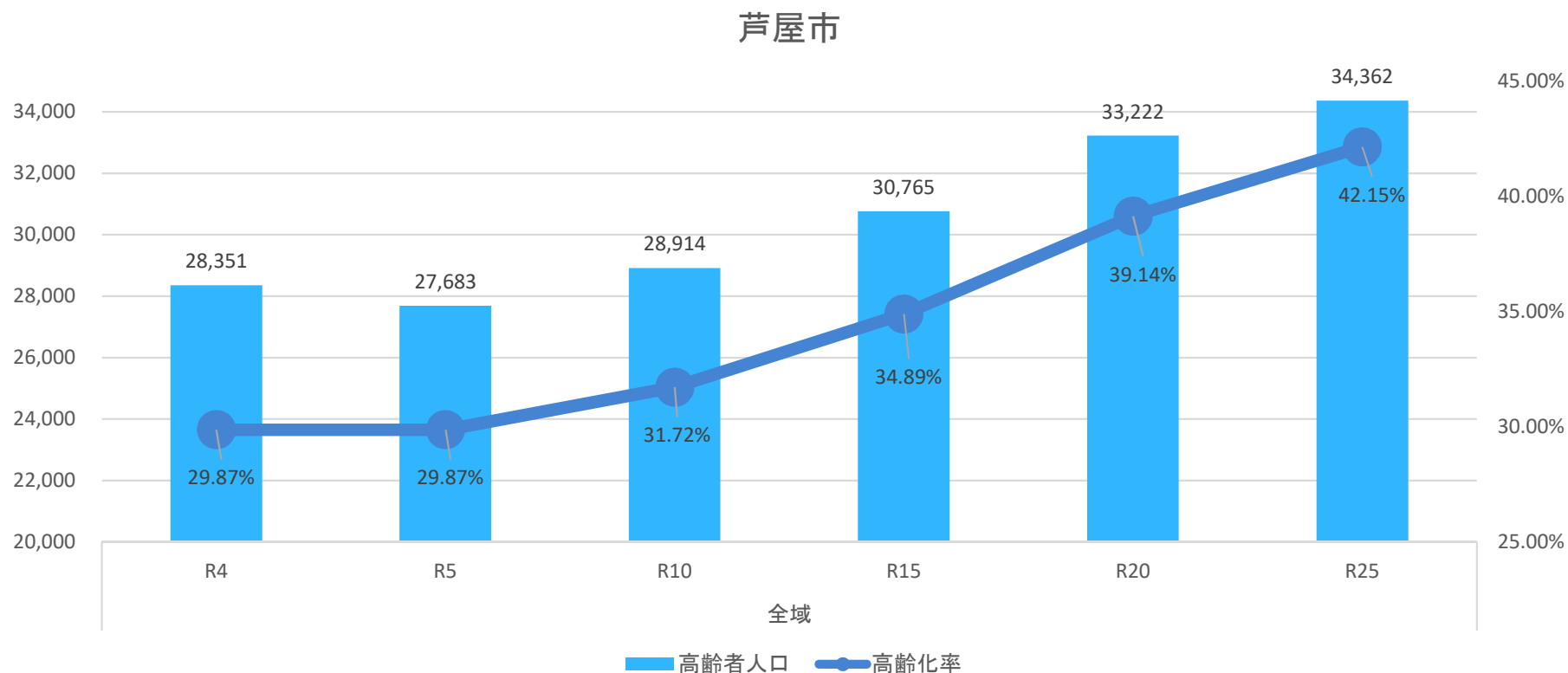
相談件数(新規及び継続)は、昨年度と比べて、ほぼ横ばいであるものの、高齢者人口の増加に伴い、地域包括支援センターの労力や負担も増加し続けると予想される。



今後の地域包括支援センターを取り巻く状況

■ 上昇し続ける高齢者人口と高齢化率

今後高齢者人口は令和25年度まで上昇し続ける推計となっている。
あわせて高齢化率も上がることから、地域包括支援センターの役割と負担は年々増加する予想される。

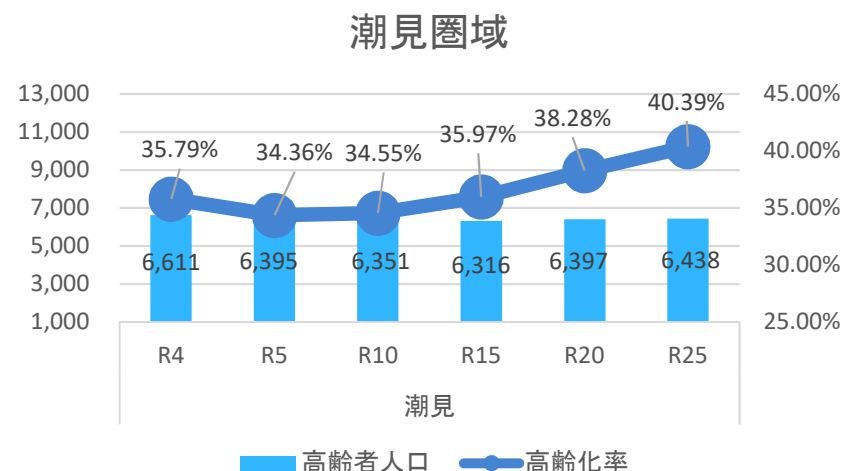
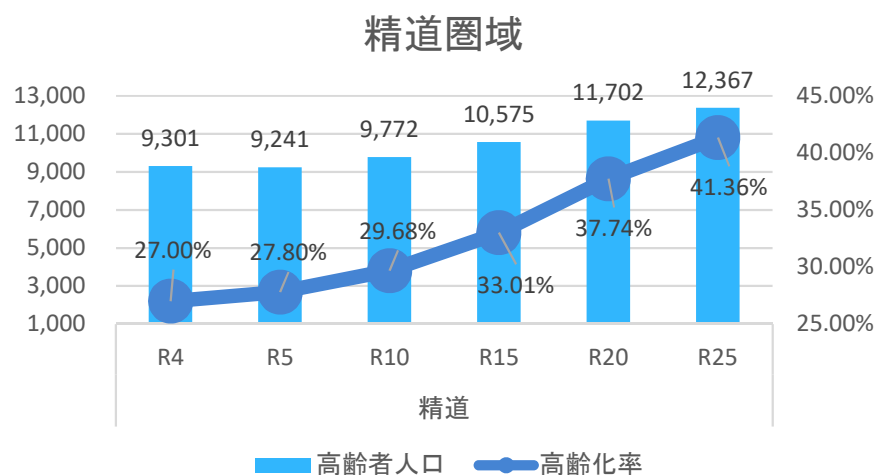
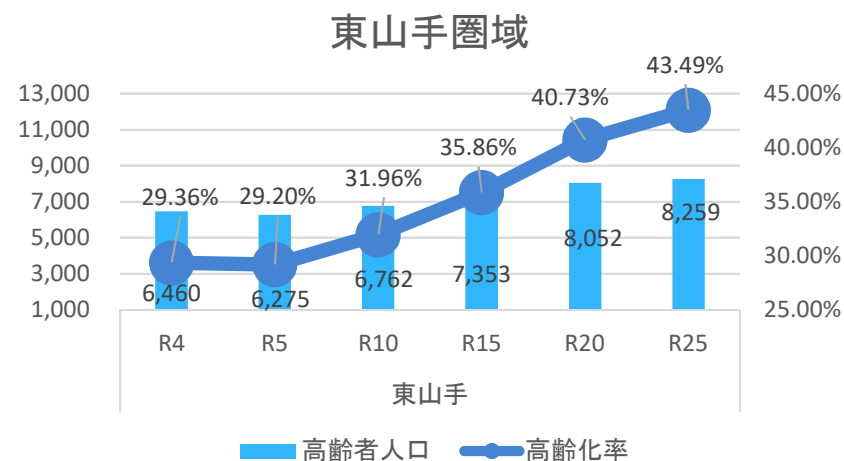
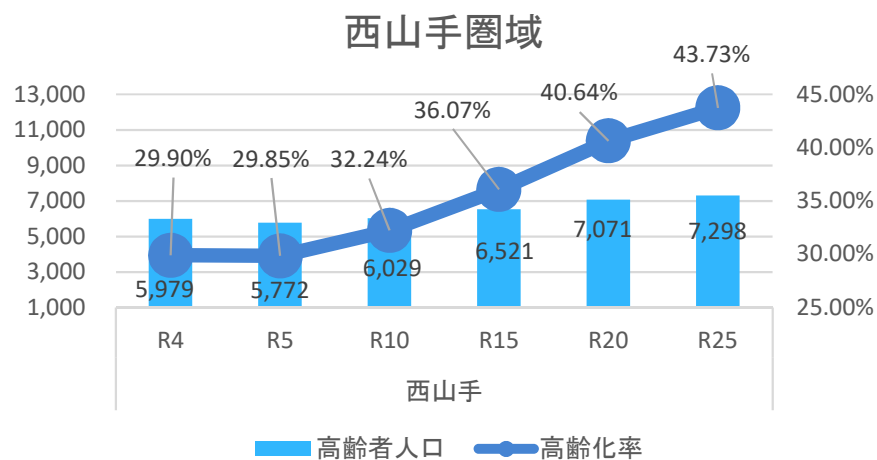


芦屋市将来人口推計結果より



今後の地域包括支援センターを取り巻く状況

■ 上昇し続ける高齢者人口と高齢化率（圏域別）

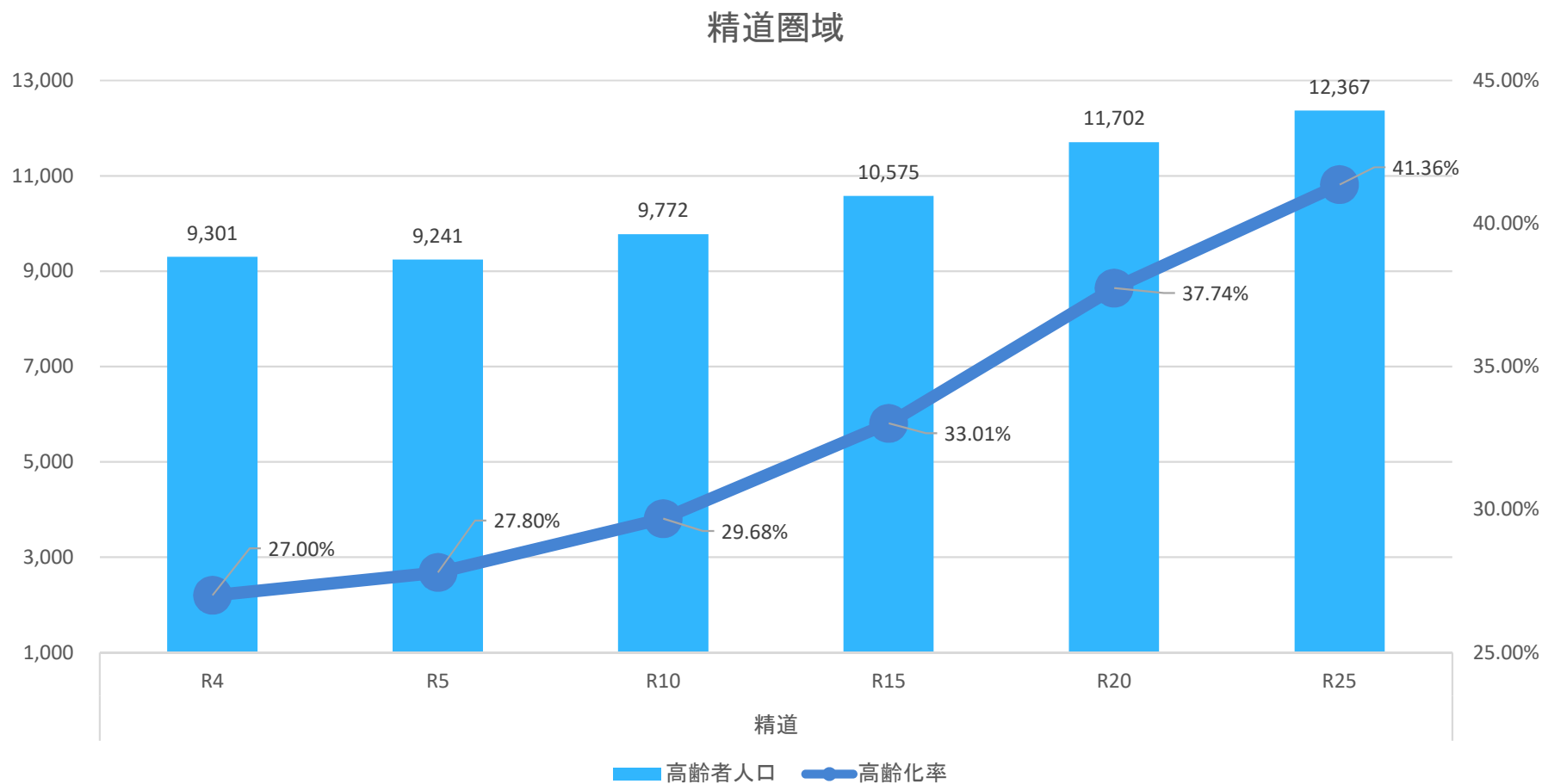


芦屋市将来人口推計結果より



今後の地域包括支援センターを取り巻く状況

■ 高齢者人口が特に多い圏域

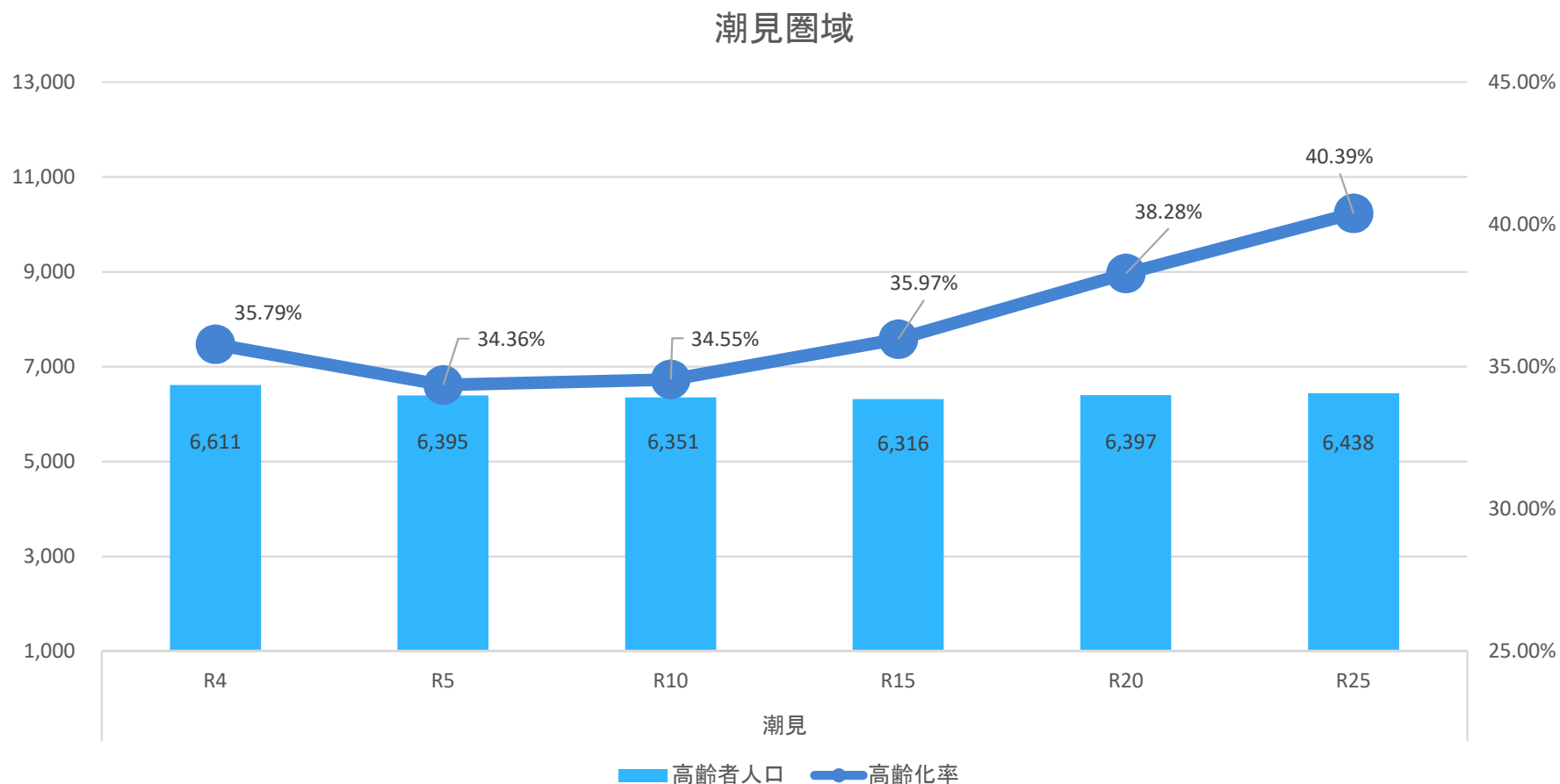


芦屋市将来人口推計結果より



今後の地域包括支援センターを取り巻く状況

■現在から継続して高齢化率が高い圏域

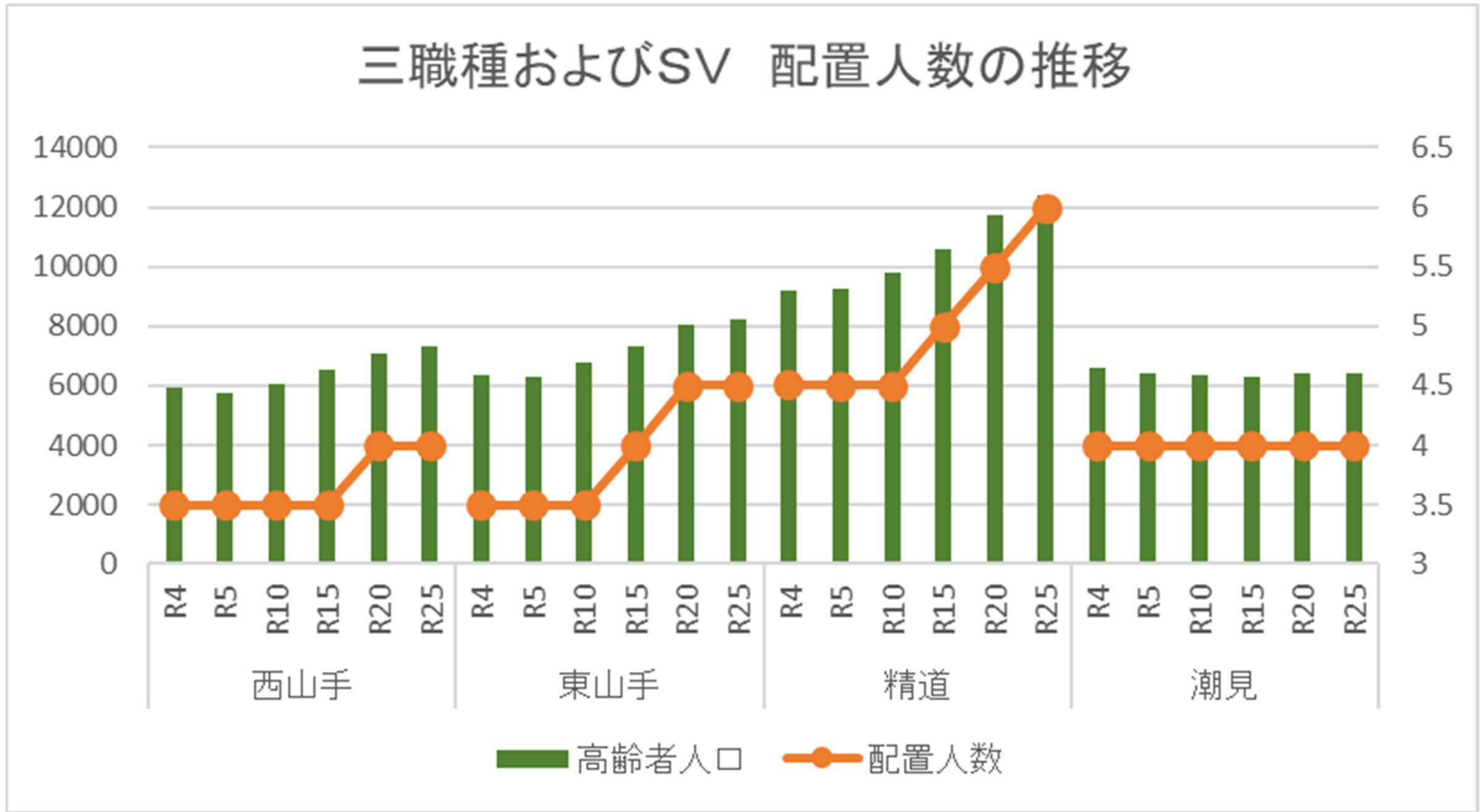


芦屋市将来人口推計結果より



今後の地域包括支援センターを取り巻く状況

三職種およびSV 配置人数の推移



芦屋市将来人口推計結果より

